子どもと若い女性への禁煙支援

コーディネーター： 神奈川県保健福祉部 鈴木 仁一・奈良女子大学 高橋 裕子

話題提供者： 国立成育医療センター 原田正平・明和会中通総合病院 松田 淳

奈良女子大学大学院 松本 泉美

【目的】子どもたちの喫煙は全国で日常的に見られる危機的な状況にあるが、治療方法はまだ確立されていない。また、若い女性と思春期の喫煙は、ニコチン依存度にかかわらず禁煙が困難なこと、特に禁煙の継続の困難さがある。

ワークショップでは、若年者（未成年者）と若い女性の禁煙支援についての文献レビューを行い、医療機関、学校等での子どもの禁煙治療の試みを紹介し、子どもと若い女性の禁煙治療の現状と今後の系統的研究の必要性について討議を行う。

【研究発表】

1 若年者への禁煙支援の文献レビュー（原田正平）

(1) 「15の試験研究をレビューし、いずれも未だ若年者に対する介入方法として十分な結果が得られていなかった。」

(2) 「若年者のタバコ規制において小児保健医療関係者が果たす役割」

(3) 「若年者のニコチン依存症を早期にスクリーニングし、早期介入するための指標」

2 未成年者への禁煙外来から（松田淳）

3年間の未成年者禁煙外来を通じて、対象者21名の子どもたちに禁煙支援をした。受診者には大きく二つあった。①ごく普通の生徒で好奇心や友人の誘惑、退屈のぎで開始し、気づいたら依存化していたタイプで、治療は比較的容易である。②親への反発、いじめ、母子家庭のさびしさなどが背景にあり、喫煙が非行行為の単なる結果にすぎないタイプがある。この場合、最大のキーマンは親で、親を治療の輪に加えることが不可欠である。

3 未成年禁煙希望者への保健所でのNRTの経験（鈴木仁一）

保健所において無償で未成年の禁煙希望者39名にニコチンパッチ処方を行い、1ヶ月における有効性が示唆された。6ヵ月後では喫煙同居者が禁煙継続の阻害因子であることが推測された。

4 「子どもタバコゼロプロジェクト（奈良県）」（高橋裕子）

学校教職員が生徒の喫煙に気付いた場合、保健所を通じて生徒および保護者が適切な医療（禁煙治療）を受けようとするよう薦めるプログラムを実施してきた。34人の中高生の禁煙経過を分析した。子どもたちは治療によって禁煙を開始するが、さまざまな条件により再喫煙が生じていた。保護者の禁煙努力は喫煙する生徒の治療の一環として重要であることが示唆された。

5 女性の禁煙支援についての文献レビュー（松本泉美）

日本国内の先行研究から、女性の喫煙（再喫煙）要因の説明モデルの作成を試みた。

喫煙本数は10本/日程度で決して多くないが、吸いたくてたまらない・暇つぶしに吸うといったニコチン依存の存在、日常の出来事やライフイベントに対するストレスへの脆弱性、禁煙情報に対する知識不足などの特性が考えられた。女性は禁煙したいという意思も高いが、夫、親、友人などの周囲の喫煙といった環境要因などが禁煙を困難にしている。

【討議】子どもへの禁煙治療の困難性、若い女性の喫煙の特性が理解され、今後の系統的研究の必要性・重要性について討議された。